— 観 察 記 録 —

沖縄県与那国島におけるタイワンショウドウツバメ *Riparia paludicola* の日本初記録

大西敏一¹・真木広造²

¹ 〒554-0022 大阪府大阪市此花区春日出中1-3-19-401

² 〒999-3501 山形県西村山郡河北町新吉田9

(2003年9月5日受付：2004年2月23日受理)

1. 種名：タイワンショウドウツバメ *Riparia paludicola*

2. 観察者名：真木広造

3. 観察日時・場所：2000年5月5日～6日，沖縄県与那国島祖内～比川間

4. 観察距離：5 m

5. 観察した環境：農耕地（主に水田．付近にはトウモロコシ畑が存在し，周囲を山に囲まれた環境）

6. 形態に関する記述：同時に観察されたショウドウツバメ *R. riparia* とは体型が酷似していたが，わずかに小さく見えた．額から頭頂，背，上尾筒にかけては暗灰褐色で，腰はそれよりも淡色に見えた．翼部や尾は暗褐色．尾の形は浅い凹尾で，白斑などは認められなかった．喉から胸部にかけては一様に淡灰褐色で，腹から下尾筒までの体下面は汚白色であった．虹彩は暗色で，嘴は黒く，足は肉褐色であった．飛翔時に翼下面は暗色に見えた．静止時は翼端と尾端がほぼ同じ位置にあった．ショウドウツバメとは飛翔時や静止時を問わず区別が可能であった．

7. 計測値：—

8. 種を同定した規準：同時に観察されたショウドウツバメとは形態的に酷似していたが，頭部から胸部にかけては一様に淡灰褐色で横帯は認められず，腰の色はショウドウツバメに比べてやや淡く見え，尾に白斑は認められなかった．これらの点や前述した形態的特徴から，本個体をタイワンショウドウツバメ *R. paludicola* と同定した．ただ，本種は亜種間の形態的差異が少ないこともあり，野外での観察や記録写真からは亜種までの同定には至らなかった．本種とショウドウツバメとの大きな形態的違いは，喉が白くなく，胸部に褐色横帯が無いことであり（Turner & Rose 1989，台

灣野鳥資訊社・日本野鳥の會 1991），その他の類似種で分布が比較的近く，体色が褐色で尾が燕尾ではないガケツバメ *Hirundo rupestris* やインドチャイロツバメ *H. concolor* などとは，前者では大きさや尾の白斑の有無など，後者では喉から下尾筒にかけての色彩などから区別される．

9. 観察した行動：朝・夕の短い時間帯に30羽程度のショウドウツバメの群れに混じって観察され，単独で見られることはなかった．飛翔時は採餌しているようにも見えたが，はっきりとは確認できなかった．時折，水田脇の電線に止まり，羽づくろいをするなどして休息していた．

10. 写真あるいは写真の有無：有り（図1）．真木・大西（2000）に同一個体の写真が掲載されており，写真の証拠を伴う日本初記録の個体である．

11. 死体・標本保管場所：—

12. 過去の記録とその文献：1999年11月7日に沖縄県金武町億首川付近で本種と考えられる個体が観察されている（真木・大西 2000，沖縄野鳥研究会 2002）．その時はツバメ *H. rustica* 1羽とコシアカツバメ *H. daurica* 1羽とともに，河口部から河川に隣接する水田地帯の上空を飛翔しているのが観察されたもので，最大5羽が同時に確認された（小園 茂 私信）．

13. その他：5日は1羽のみの確認であったが，6日には2羽同時に観察された．

14. 考察：本種 *R. paludicola* はアフリカ，マダガスカル，ウズベキスタン南東部，タジキスタン南西部，アフガニスタン北部，パキスタン，インド北部，中国南西部，台湾，フィリピン，東南アジアなどに留鳥として分布し（顔ら 1996，Turner & Rose 1989，Robson 2000，Clements 2000），6亜種（Turner & Rose 1989）や9亜種（Clements 2000）などに分類されているが，台湾や中国南西部などアジア

図1. 2000年5月3日に沖縄県与那国島で撮影されたタイワンショウドウツバメ *Riparia paludicola*. 右端の鳥はツバメ *Hirundo rustica*. (真木広造 撮影)

Fig. 1. The Brown-throated Sand Martin *Riparia paludicola* photographed at Yonaguni-jima, Okinawa Pref. on 5 May 2000. The bird to the right is Barn Swallow *Hirundo rustica* (Photo by H. Maki)

アに分布する亜種は *R. p. chinensis* とされ (Turner & Rose 1989, Clements 2000), 局地的な季節移動をするという (Turner & Rose 1989). このような亜種が台湾に分布していることから, 本種が渡り期に琉球列島 (特に八重山諸島) に出現する可能性は高く, 分布的・地理的に見ても亜種 *R. p. chinensis* が渡来したと推測される. その後の記録としては, 与那国島において2002年4月4日~6日に1羽 (真木広造未発表) が観察されている. この時は祖内と久部良で異なる時間帯に観察されたが, すべて同一個体であるかは不明である.

以上のことから, 本種はごく少数ながら渡り期に八重山諸島へ渡来していると考えられるが, 形態的に酷似するショウドウツバメなどにまぎれ見落とされる可能性もあるため, 今後の観察には十分な注意が必要であろう.

本稿作成にあたって小園茂氏には文献や貴重な記録を提供していただいた. また, 匿名レフリーの方々には文献や有意なご意見をいただいた. ここにお礼申し上げる.

引用文献

- Clements JF (2000) *Birds of the World A Checklist*. Pica Press, Sussex.
- 顔 重威・趙 正階・郭 光美・許 維樞・譚 耀匡 (1996) 中国野鳥図鑑. 翠鳥出版, 台北.
- 真木広造・大西敏一 (2000) 日本の野鳥590. 平凡社, 東京.
- 沖縄野鳥研究会編 (2002) 沖縄の野鳥. 新報出版, 沖縄.
- Robson C (2000) *A Field Guide to the Birds of Southeast Asia*. New Holland, London.
- 台湾野鳥資訊社・日本野鳥の会 (1991) 台湾野鳥圖鑑. 亞舍圖書有限公司, 台北.
- Turner A & Rose C (1989) *A Handbook to the Swallows and Martins of the World*. Christopher Helm, London.

The first record of the Brown-throated Sand Martin *Riparia paludicola* from Japan.

Toshikazu Onishi (1-3-19-401 Kasugade-naka, Konohana-ku, Osaka 554-0022, Japan.) & Hirozou Maki (9 Shin-yoshida, Kahoku, Nishi-murayama, Yamagata 999-3501, Japan.)